様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：１４３０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０６３９７

研究課題名（和文）日米欧の横断的考察による開港期建築技術者の経歴に関する研究

研究課題名（英文）Study on the career of archiect-engineer in the opening port era.

研究代表者
大田　省一（Ota, Shoichi）

京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・准教授

研究者番号：６０３４３１１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本に渡ってきた開港期建築技術者の経歴を調査することで、近代化の黎明期における西洋建築技術の導入過程を再考察することを目的とする。同様研究は国内事例に集中するきらいがあり、来日前の経歴、即ち技術の導入経路については不明な点が多かった。しかしながら、近年各国でデータベースの構築が進んだことで、従来では調査が難しかった19－20世紀の人的交流の足跡を追うことが可能になってきた。本研究はこのような情報化の進展による新たな研究環境に対応した国際的な視点・ネットワークにより、従来は不可能であったスケールで開拓地的技術の足跡を追うことにより、西洋建築技術の導入過程の再評価を目指すものである。

研究成果の概要（英文）：This study is aimed to redefine the process of Western-styled architecture, based on the investigation of career of architect-engineers, who came to Japan in the opening-port era. Related studies were once concentrated to domestic cases, and consequently their process to Japan remain unclear. However, the development of databases world wide enables to trace the footpaths of human activities in 19-20th centuries. The purpose of this study is to review and reconsider the process of the introduction of Western-styled architecture into Japan through the analysis of adventure-engineer.

研究分野：建築史学

キーワード：開港地　擬洋風建築　西洋化　サーベイヤー　開拓地

１．研究開始当初の背景

近代化の初期に活躍する外国人技術者については、わが国の近代化・産業化の観点から重要視され、すでに多くの研究蓄積があるが、彼らの日本以外での経歴には不明点が多いままであった。その間、近年では富岡製糸場関連施設の世界遺産登録に象徴されるように、文化資産の活用にあたっての各地での近代化の再検証が行われるようになってきた。また西欧諸国では自国を出て新大陸・植民地へ渡った人物のデータベース化が進展し、新大陸の側では各地方レベルで近代化に貢献した技術者の検証が進むなど、従来とは異なったスケールで人的交流の足跡を追うことが可能となっている。このような近代化遺産関連の研究環境の劇的な進歩をうけて、建築技術の導入過程を横断的に検証し再評価することが構想された。

２．研究の目的

研究は、日本に渡ってきた開港期建築技術者の経歴を調査することで、近代化の黎明期における西洋建築技術の導入過程を再考察することを目的とする。同様研究はすでに長年に亘って行われており、多くの成果を挙げてきた。一方で、研究は国内事例に集中するきらいがあり、来日前の経歴、即ち技術の導入経路については不明な点が多かった。しかしながら、近年各国でデータベースの構築が進んだことで研究環境は大きく改善しており、従来では調査が難しかった 19－20 世紀の人的交流の足跡を追うことが可能になってきた。本研究はこのような情報化の進展による新たな研究環境に対応した国際的な視点・ネットワークにより、従来は不可能であったスケールで開拓地的技術の足跡を追うことにより、西洋建築技術の導入過程の再評価を目指すものである。

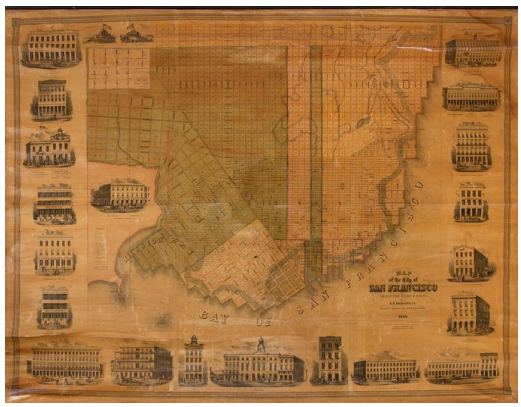
３．研究の方法

研究に関しては、日本国内での開港期建築技術者の活動、米国での建築技術者の足跡、ヨーロッパから海外へ出た技術者の足跡について、横断的に調査を実施する。日本国内調査については、研究会を開催し現状での研究状況の総括と問題点の確認を行う。米国、イギリス、フランスについては、研究協力者との協議により、それぞれの国内・地域内での研究状況を把握し、各文書館・図書館等での調査を実施する。また、各地での調査成果の共有にも努め、近代化初期の建築技術の伝播形態の解明に資することを企図する。

４．研究成果

日本への西洋建築の導入過程を検証するため、ヨーロッパからアジア経由のルートとは逆回りの、アメリカ経由のルートの実態を解明すべく、アメリカでの史料調査を実施した。

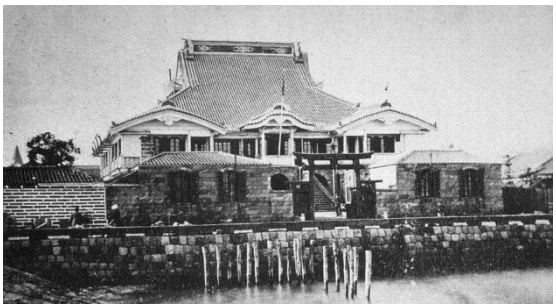
この中で、日本の開港期において、国内初の鉄道駅となる新橋・横浜両停車場を設計するなど、西洋建築の黎明期に公共施設等を手掛けたリチャード・ブリジェンスの経歴を明らかにした。彼は、日本に来る前にサンフランシスコで、施設の建設に関与しており、都市図の作成を手掛けていたことが判明した。さらに、それ以前はフィラデルフィアにてリソグラファーとして活動していたことを確認し、彼の作品をフィラデルフィア図書館協会にて発見した。ブリジェンスが専門の建築家ではなかったことが確認され、このことが、彼の横浜での作風を決定していたこと、さらに、彼に学んだ日本人建築関係者の作品にも影響を与えたことが伺え、アメリカ経由の西洋建築導入ルートが幕末明治初期の日本の西洋建築のかたちを決めたことが明らかになった。



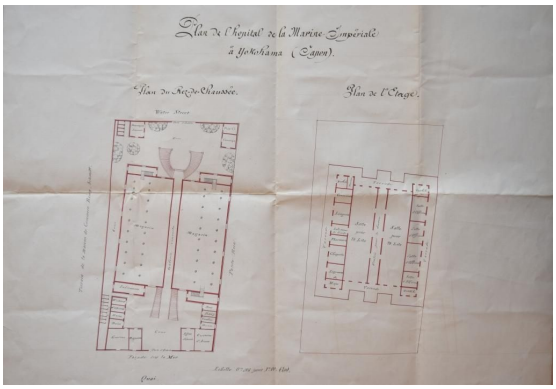
R. P. ブリジェンスによるサンフランシスコ都市図（1854 年）

一方、ヨーロッパからアジア経由のルートにおいては、横浜に存在したフランス海軍病院・フランス海兵隊兵舎の図面を発見した。特に前者は、寺院風の大屋根を載せた得意なシルエットに代表される、和洋折衷のデザインが特徴的な建築であったが、フランスの史料館で確認されたのは平面図のみであった。このことから、平面のプランニングのみはフランス側で指定し、あとは日本側に任せたことが推察される。このような設計態度は、すでに築地ホテル館でみられたものと同様であり、十分な建設体勢が整わない開港地での建築に特有のものと考えられる。ヨーロッパの側の海外での建築活動の実践的な工夫の結果ともいえる、このような建築的特徴もまた、明治期の日本人による和洋折衷建築への道を開いたともいえる。

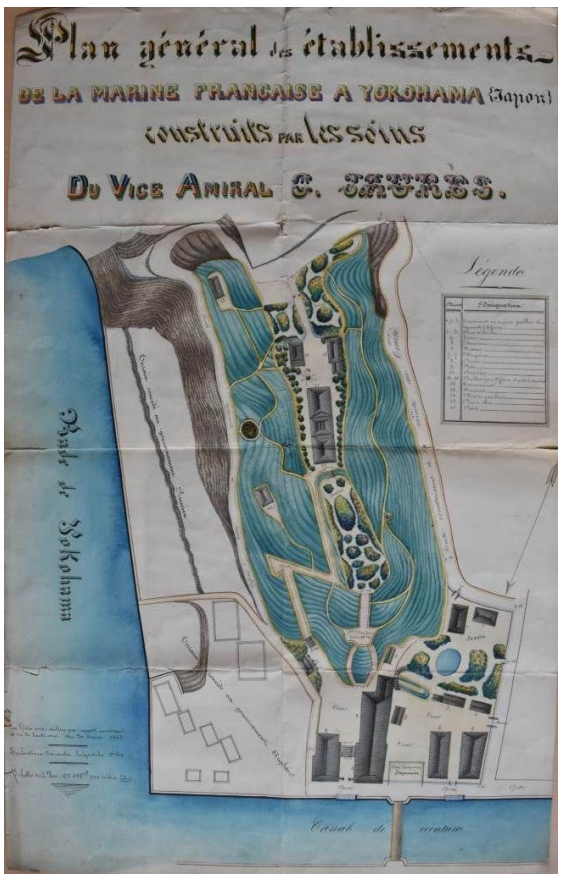
以上のように、アメリカ経由、ヨーロッパからのアジア経由の二つのルートでの日本への西洋建築の導入過程において、本研究課題での決定的な発見により、それぞれのルート上の建築的特性が明らかとなった。この２つのルートが日本で出会ったことが、明治期以降の日本の西洋建築のかたちを決める上で大きな役割を果たしたことが、本研究課題により明らかとなった。



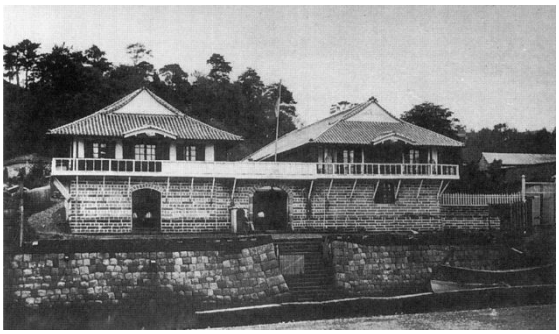
フランス海軍病院（ライデン大学蔵）



フランス海軍病院平面図



フランス海軍兵屯所　平面図
フランス・ヴァンセンヌ防衛歴史史料館（Centre historique des archives, Service historique de la Défense）蔵



フランス海軍兵屯所（*Far East*）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）

① 大田省一「ヤンゴンのローハウスについて：ヤンゴン近代建築悉皆調査報告」、日本建築学会『日本建築学会大会学術講演梗概集』2015 年、79-80 頁。
② 大田省一「横浜フランス海軍屯所及びフランス海軍病院の図面について」、日本建築学会『日本建築学会大会学術講演梗概集』2017 年、213-214 頁。

〔学会発表〕（計　3　件）

① 大田省一「ヤンゴンのローハウスについて：ヤンゴン近代建築悉皆調査報告」、日本建築学会
② 大田省一「横浜フランス海軍屯所及びフランス海軍病院の図面について」、日本建築学会
③ Callange of conservation of Wooden structure in urban landscape, ICOMOS Thailand, Nov.2015.

〔図書〕（計　件）

① 増島実、大田省一『HOTEL INDOCHINA』（集英社、2016 年。
② 岩井美佐紀、大野美紀子、大田省一『ベトナム新経済村の誕生（神田外国語大学出版局、2016 年）
③ 松行美保子、志摩憲寿、城所哲夫編、大田省一他著『グローバス時代のアジア都市論』（丸善出版、2016 年）
④ 伊藤毅編、大田省一他著『フエ Hue　ベトナム都市と都城』（中央公論美術出版、2018 年）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
大田省一（OTA, Shoichi）
京都工芸繊維大学・デザイン・建築学系・
准教授
研究者番号：60343117

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)